

令和 3 (2021)年度

事 業 報 告 書

自 ; 令和 3 年 (2021年) 3 月 1 日

至 ; 令和 4 年 (2022年) 2 月 28日

公益財団法人

日本高等学校野球連盟

1. 高等学校野球の普及、振興、指導及び監督

- (1) 年度内に評議員会を2回（定時ならびに臨時各1回）、理事会を11回、それぞれ開催して案件の審議、決定を行いました。また業務運営委員会を年10回開催（8、12月を除く）して当面の諸案件について協議、連盟運営の円滑化を図りました。
- (2) 年度内に各種委員会（総務、財務、審判規則、選手権大会運営、選抜大会運営、軟式部、医科学、技術・振興、プロアマ健全化）を必要に応じて随時開催し、諸問題の検討を行い、高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。また、審議委員会を開催し（全体委員会を年5回、小委員会を週1回計45回）、不祥事件に対する指導を行うとともに、不祥事件発生防止の重点目標を5項目（指導者の部内暴力の根絶、部員のいじめ行為の絶滅、インターネットや携帯電話のメールによる迷惑行為の防止、部活動引退後の3年生部員への指導の徹底、アウトオブシーズン中の指導の徹底）を挙げて、諸会議や通達で指導徹底を行いました。さらに「高校野球200年構想」推進委員会を随時開催し、「普及・振興」「けが予防・育成」「財政・財源」を3つの柱として、高校野球の未来について協議しました。
- (3) 年度内に各都道府県高等学校野球連盟会長会議を1回、同理事長会議を4回それぞれ開催し、新型コロナウイルス感染拡大の中、昨年同様に加盟団体との連絡と諸問題の伝達、徹底を計りました。
- (4) 本年度も『大会参加者資格規定』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。
- (5) 各種表彰（日本学生野球協会優秀選手表彰、育成功労賞表彰）を行いました。
- (6) 高等学校野球の普及、振興のため、部員不足による連合チームの大会参加を本年度も認めることとしました。

2. 高等学校野球大会その他の試合の開催及び協力

(1) 第93回選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で令和3年3月19日（金）から4月1日（木）までの13日間（雨天順延2日＜21日、28日＞、休養日1日＜30日＞）、阪神甲子園球場で開催、令和3年1月29日（金）に開かれた選考委員会で選考された32校が参加、無事盛況のうちに終了し、東海大学付属相模高等学校（神奈川）が10年ぶり3回目の優勝を果たしました。準優勝は明豊高等学校（大分）。

(2) 第103回全国高等学校野球選手権大会

朝日新聞社と共催で令和3年8月10日（火）から29日（日）までの17日間（雨天による7度の順延、休養日1日＜28日＞）、阪神甲子園球場で49校が出場して開催した。智辯学園和歌山高等学校（和歌山）が21年ぶり3回目を果たしました。準優勝は智辯学園高等学校（奈良）。

(3) 第66回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て、令和3年8月25日(木)から30日(月)までの6日間、兵庫県の明石トーカロ球場とウイंक球場(姫路球場)の2球場で開催しました。参加校は全国16地区から各1校ずつ計16校。作新学院高等学校(栃木)が6年ぶり10回目の優勝を果たしました。準優勝は中京学院大学附属中京高等学校(岐阜)。

(4) 第76回国民体育大会・高等学校野球競技

三重県下での開催が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

(5) 第52回明治神宮野球大会・高等学校の部

令和3年11月20日(土)から25日(木)までの6日間(休養日1日<24日>)、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、秋季地区大会の優勝校10校が参加し、大阪桐蔭高等学校(大阪)が初優勝を果たしました。準優勝は広陵高等学校(広島)達成しました。

(6) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、関東(山梨)、北信越(新潟)、東海(三重)、近畿(滋賀)、中国(鳥取)、四国(香川)、九州(大分)の全国8地区で令和3年4月下旬から6月上旬にかけて開催しました。

なお、東北地区(秋田)は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

(7) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、東北(宮城)、関東(茨城)、東京、北信越(長野)、東海(愛知)、近畿(滋賀)、中国(山口)、四国(愛媛)、九州(鹿児島)の全国10地区で令和3年10月上旬から11月中旬にかけて開催しました。

なお、東北地区(青森⇒宮城)、九州地区(沖縄⇒鹿児島)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初予定の開催地から変更しました。

3. 高等学校野球に関する調査及び研究

(1) 加盟校数、部員数調査

令和3年5月末現在の硬式、軟式それぞれの加盟校数、部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が134,282人(3,772人減)で7年連続の減少、軟式が7,898人(111人増)で増加。また、加盟校数は硬式が昨年から42校減の3,890校、軟式が8校減の399校。

4. 高等学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

- (1) 昨年同様、公式戦において1週間500球以内の投球数制限を実施、スポーツ障害の予防に努めました。
- (2) 年度内に開催の第93回選抜大会と第103回選手権大会に参加した投手全員を

対象に、大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害の予防に努めました。検査結果の概要は次の通り。

	(93回選抜)	(103回選手権)
検査受診者数	113人	176人

検査の結果、大会規定による投球禁止適用者はいなかった。

5. 高等学校野球に関する講習会・研修会の開催

(1) 新任理事長研修会

令和3年度新たに就任した都道府県連盟理事長・専務理事11人(青森、福島、栃木、神奈川、長野、富山、福井、和歌山、兵庫、大分、鹿児島)を対象に、令和4年2月11日(金・祝)、オンラインによる研修会を開催しました。

(2) 審判講習会

当初予定していた第61回全国審判講習会(令和3年5月8、9日)、少年野球審判研修会は中止した。

全国9地区での地区別審判講習会については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で講師派遣は取りやめたが、各地区でオンラインによる審判懇談会を実施、講師が参加する形とした。

日本高校野球連盟審判委員の技術向上及び人財育成のための指導力向上を目的に、令和4年2月23日(水・祝)、実技ならびに座学研修を太成学院大学高校で行った。対象者は第94回選抜高等学校野球大会に委嘱された審判委員。

また、プロとアマとの審判の交流、情報交換を目的に令和4年1月21日(金)に第26回プロアマ合同審判研修会を中沢佐伯記念野球会館で開催。プロから25人、アマ(社会人、大学、高校)から28人が参加した。

(3) 指導者育成プログラム「高校野球・甲子園塾」

令和3年11月ならびに12月に予定していた高校野球・甲子園塾を中止した。

(4) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」

日本野球機構、日本プロ野球選手会の協力を得て、1ヵ所で開催しました。開催結果は次のとおり。

- ① 令和3年12月11日(土) 島根県 出雲ドーム
受講者；加盟校数39校、部員160人

6. 高等学校野球を通じた国際交流及び国際相互理解の推進

9月に米国フロリダ州で開催される予定であった第30回WBSC U18 ベースボールワールドカップが新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となった。

7. 高等学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 野球各団体との提携

全日本野球協会、日本野球連盟、日本学生野球協会、全日本大学野球連盟と定期的に打ち合わせを開催。

(2) 学生野球資格回復に関する協議会

日本学生野球協会と日本野球機構ならびに日本プロ野球選手会が元プロ野球選手の学生野球資格回復について検討する学生野球資格回復に関する協議会に参画しました。

8. 就学前児童、小学生、中学生に対する野球の普及、振興

小学校、中学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

小学校、中学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 高校野球200年構想関連事業

普及、振興、けが予防、育成、基盤作りをテーマに、高校生だけでなく就学前児童、小学生、中学生まで対象を拡げて、各種事業を実施した。35連盟で都道府県高校野球連盟主体事業70件(318回)、ちびっ子ベースボールフェスティバル2件が開催された。事業総支出は約3,800万円。

以 上